

平成11年10月24日（日）

第25回 越谷市民まつり

越谷市郷土研究会 展示出品紹介

越谷市袋山の細沼家所蔵
『釈迦堂再建無尽連名帳』

加藤 幸一

大沢小学校の
『青い目の人形』

水上 清



米国から贈られた「青い目の人形」へズ

越谷市代表山の細沼家所蔵
『釈迦堂再建無尽連名帳』

加藤 幸一

「釈迦堂再建無尽連名帳」とは、嘉永五年（一八五二）八月九日に釈迦堂が再建されたのを機会に、今後予想される釈迦堂の修繕費を捻出するために、無尽講による収益をあてようと集まった人たちが組織した無尽講の連名帳のことである。

無尽講とは、相互に金銭を融通しあう目的で組織された講のことである。世話人の募集に依りて講の一員となった者たちが一定の掛け金を持ち寄りて定期的に集金を繰り返して催し、そこで抽選や入れ札などの方法によって当選した者が所定の金額を受け取り、講の全員が受け取り終えた後、講を解散するという庶民金融の組織である。頼母子講ともいう。

この袋山村の釈迦堂の無尽講では、抽選会の興行を二十五回行っている。無尽の掛金は一口一分で、二十五口分の二十五分、一両は四分なので、つまり六両一分が一回の興行で集まる。六両一分の使い道は、籤の当選人が五両二分もらい、釈迦堂の修繕費に回す割り戻しは二分、興行に出費する賄い料が一分となっている。

この釈迦堂の無尽講の取り決めをしたのは嘉永五年（一八五二）九月七日のことである。その時に決められた中心となる世話人は池田八郎左衛門、遠藤吉郎兵衛、小林喜平太の三名である。

なお、無尽講の興行日（全部で二十五回）とその時の当選人は下の通り。

第一回

嘉永六年	九月 十日	小林喜平太
嘉永六年	十一月 七日	池田八郎左衛門
嘉永七年	九月 八日	藤井源七
嘉永七年	十一月 十五日	小林浅五郎
嘉永七年	〇月 七日	松本清五郎
安政二年	三月 八日	藤井安左衛門
安政二年	九月 七日	磯八と庄次郎
安政二年	十一月 七日	源六と清兵衛
安政三年	三月 八日	藤井安左衛門
安政四年	二月 七日	遠藤八右衛門
安政五年	四月 十五日	清田文蔵
安政五年	十月 十六日	遠藤吉郎兵衛
安政六年	四月 十五日	池田幸次郎
万延元年	九月 十八日	吉蔵と桑蔵
〆年代不詳	九月 七日	佐平と茂吉
十七回目		
文久元年	九月 十五日	藤井彦兵衛
文久二年	二月 七日	民右衛門と斎蔵
文久二年	九月 九日	細沼雅之輔
文久三年	二月 十五日	遠藤兼次郎
元治元年	九月 十五日	遠藤七左衛門
元治二年	二月 十五日	植木屋の惣太郎
慶応元年	九月 十五日	石井金左衛門
慶応二年	二月 十五日	遠藤仲右衛門
慶応三年	二月 十五日	遠藤政次郎

(表注)

嘉永五年
釈迦堂再建無尽連名帳
子九月 吉祥日
池田八郎左衛門
遠藤吉郎兵衛
小林喜平太

※嘉永五年は一八五二
※安永三年は一七七四
※天保七年は一八三六
※慶應は「慶」の誤り、卯月は四月、四ツ時は午後十時
※嘉永四年は一八五二

指又石蔵取候らの不件之年預有之儀共、其もの多は決して通帳申問敷候、取願之もの相違二可任事
尤も斯方之義は、老人前米五合相寄、或〇之義は
釈迦堂を不慮差出候
右請定之儀、年中一同相寄可申候、以上

嘉永五年は一八五二
九月七日
八 八郎左衛門
古 古郎兵衛
喜 喜平太

柳宿山山麓に等之儀は、寛永五年
開基にて本尊は釈迦如来二座シけるに、安永三年
六月廿三日焼失之後、仮祭ニ鎮座申しけるに、
近頃は天保七年春、本尊再建出立いたし儀也
同年卯月十四日之四ツ時頃、卯二天恩雨にて吹倒れ、
其儀假家ニ差附けるに、爰に嘉永四年

※寛永五年は一六二八
※安永三年は一七七四
※天保七年は一八三六
※慶應は「慶」の誤り、卯月は四月、四ツ時は午後十時
※嘉永四年は一八五二

嘉永五年
九月七日
八 八郎左衛門
古 古郎兵衛
喜 喜平太

※嘉永五年は一八五二
九月七日
八 八郎左衛門
古 古郎兵衛
喜 喜平太

又八月後序中日二當り、講頭國勝村にて
亮屋有之儀二付、大竹村末茂久次郎セハを以て
代金四兩貳分にて買取、当三二月五日棟上にて、
八月九日何儀中ロにて新出来ニ相成候也、
諸儀、運送不致取調けるに、凡三番五面余
相掛候二付、結中一箇に昔時成候以後、
慶應、相掛無尽相懸候也、早速承知之旨、
年々三番開行、尤も代金之義は六兩二
相換、代金貳分制利シ、手取金五兩貳分二
相換メ、一両加入申候末茂也、然ル上は天願當之
ものは借用一札差入、金子取取可申候事、

※寛永五年は一六二八
※安永三年は一七七四
※天保七年は一八三六
※慶應は「慶」の誤り、卯月は四月、四ツ時は午後十時
※嘉永四年は一八五二

嘉永五年
九月七日
八 八郎左衛門
古 古郎兵衛
喜 喜平太

※嘉永五年は一八五二
九月七日
八 八郎左衛門
古 古郎兵衛
喜 喜平太

式一巻口 遠藤 吉郎兵衛

金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

右之通儲受取申候、已上

※安政五年は一八五八

式一巻口 小林 喜平 太郎

嘉永六丑年九月十日 掛金儲ニ受取申候

金五兩貳分也 請取

※嘉永六年は一八五三

式一巻口 遠藤 政次 郎

慶応三年二月十五日 掛金儲受取申候

金五兩貳分也

※慶応三年は一八六七

右之通儲ニ受取申候、已上

式一巻口 松本 清五 郎

嘉永七寅年二月七日 掛金儲受取申候

金五兩貳分也

※嘉永七年は一八五四

右儲ニ請取申候 請人 仲之助

式一巻口 遠藤 仲右衛門

一金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

右之通り儲ニ受取申候、已上 文右衛門 郎

慶応二年は一八六六

式一巻口 清田 文蔵 郎

金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

右之通儲受取申候、已上 受人 親類 源 六郎

※安政五年は一八五八

式一巻口 藤井 源七 郎

金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

右之通り儲ニ受取申候、已上

※慶永七年は一八五七

式一巻口 同 安左衛門 郎

金五兩貳分也 掛金儲受取申候

右之通儲ニ請取申候、已上 請人 源 七郎

※卯年は安政二年

式一巻口 藤井 彦兵衛 郎

十七金目 金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

右之通り儲ニ請取申候、已上 請人 安左衛門 郎

※文久元年は一八六一

式一巻口 藤井 安左衛門 郎

金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

右之通り儲ニ受取申候、已上 受人 源 七郎

※安政三年は一八五六

四一巻口 安政四年 遠藤 七左衛門

金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

右之通り儲ニ受取申候、已上 池田 八郎 左衛門 郎

※元治元年は一八六四

式一巻口 小林 浅五 郎

金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候、已上

右之通り儲ニ受取申候、已上 請人 吾兵衛 郎

※嘉永七年は一八五四

式一巻口 遠藤 兼次 郎

金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

右之通り儲ニ受取申候、已上 請人 兼 次郎

※文久三年は一八六三

式一巻口 石井 金左衛門 郎

金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

右之通り儲ニ受取申候、已上 請人 五郎 御家

※慶応元年は一八六五

式一巻口 同 文次郎

安政二卯年十一月七日 掛金儲ニ受取申候

式一巻口 清兵衛 郎

金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

右儲ニ受取申候

※安政二年は一八五五

式一巻口 清田 文蔵 郎

金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

右之通儲受取申候、已上 受人 親類 源 六郎

※安政五年は一八五八

式一巻口 藤井 源七 郎

金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

右之通り儲ニ受取申候、已上

※慶永七年は一八五七

式一巻口 同 安左衛門 郎

金五兩貳分也 掛金儲受取申候

右之通儲ニ請取申候、已上 請人 源 七郎

※卯年は安政二年

式一巻口 藤井 彦兵衛 郎

十七金目 金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

右之通り儲ニ請取申候、已上 請人 安左衛門 郎

※文久元年は一八六一

式一巻口 藤井 安左衛門 郎

金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

右之通り儲ニ受取申候、已上 受人 源 七郎

※安政三年は一八五六

四一巻口 金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

九月七日 興行

右儲ニ受取申候、已上 掛金儲ニ受取申候

右之通り儲ニ受取申候、已上 掛金儲ニ受取申候

八右衛門 郎

※万延元年は一八六〇

式一巻口 万延元年九月十八日 掛金儲ニ受取申候

金五兩貳分也 掛金儲ニ受取申候

右之通り儲ニ受取申候、已上 掛金儲ニ受取申候

吉左衛門 引受

民右衛門 郎

兼 次郎

※文久二年は一八六一

式一巻口 文久二戌年 二月七日 掛金儲ニ受取申候

右之通り儲ニ受取申候、已上

掛金儲ニ受取申候

※文久二年は一八六一

式一巻口 半口 内式兩三分受取 請人 八郎

半口 内式兩三分受取 受人 兵部 郎

八番詰り 受人 兼 次郎

安政二年 掛金儲ニ受取申候

卯九月七日 掛金儲ニ受取申候

※安政二年は一八五五

○ 十一合目申請
 一巻口
 安政四年 二月七〇
 速藤八五衛門
 ※安政四年は一八五七

○ 掛金請ニ受取申候
 掛金請ニ受取申候
 請人 七左衛門〇

○ 細沼言左衛門〇
 嘉永七賀年
 六 一巻口 九月九日
 金五兩貳分也

右之通請取申候
 文久二戌九月九日
 六 一巻口
 金五兩貳分也

同 雅之輔
 右之通り端ニ受取申候、以上

元治二年五月十五日 植木屋 惣太郎
 六 一巻口
 金五兩貳分也

右之通り端ニ受取申候、以上
 武治五口
 此金六兩七分也

内訳ケ 金貳分也 別戻し
 同差分也 賄料

手取金五兩貳分也
 ※元治二年は一八六四
 ※文久二年は一八六二

※六両一分より、割り戻し二分と賄い料一分を差し引くと、手取り五兩二分
 ※和一の掛け金(一分)が二十五口ぶんあり、合計六兩一分(二十五分)

表紙

最初の本文

嘉永七年
 禪堂再建無違速成
 三子九月吉日
 湯谷 小林 行幸之

柳福祿山能に等三法を電承奉平
 同春を奉名禪堂架架を奉名
 二り奉名禪堂架架を奉名
 通以天保七年春奉名禪堂架架
 同春を奉名禪堂架架を奉名
 二り奉名禪堂架架を奉名



ワテラ・ヘズ 大沢愛子 妹サラ

大沢小学校の『青い目の人形』

水上 清

大沢小学校の校長室に三体の人形がある。二体は青い目の人形で、名はワテラ・ヘズと妹のサラ、もう一体は日本人形の「大沢愛子」である。

昭和の初め、米国で日本人移民の排斥運動が激しくなり、この事態を心配した親日家の宣教師シドニー・ギューリック博士は、人形による日米親善を呼びかけた。全米からの寄金で一万二七三九体の人形が購入され、一九二七年(昭和二年)、日本へ送り出された。

これらの人形のうち一七八体は埼玉県に、そのうち六体が越谷に配分された。大沢小学校に迎えられたのがワテラ・ヘズで、友だちとして大沢愛子が選ばれた。一方、日本からも「答礼人形」として、豪華な振袖姿の日本人形五八体が米国各州に贈られた。

一九四一年、日米両国は太平洋戦争に突入した。多くの「青い目の人形」が「敵状人形」として壊されたり、焼かれたりした。現存する人形は全国では二七〇体あまり、埼玉県で十二体、越谷ではヘズのみである。米国への「答礼人形」は約半数の現存が確認されている。

四年前、米国の文教視察団が大沢小学校を訪れたのが奇縁で、ギューリック博士の曾孫によって「青い目の人形」の存在が判明した。早速、その家族から感謝の手紙とともに、妹サラが贈られてきた。

大沢小学校では毎年七月に「青い目の人形集会」を開き、児童による人形との英語インタビューなど英語教育を兼ね、「親善」の意義を教えている。

「友情の人形」(青い目の人形)に添えられた手紙

1927年(昭和2年)

御嬢さん

此人形は「友情の人形」と申して御友達同志の御使で御座います。米國にある世界兒童親善會と申す團體を代表して、此人形は貴女や御貴家の若々様の御機嫌伺ひに日本に参ります。

長い航海をしまして美しい御貴國に着きましたときは、眼をあげて「ママー」と申して、貴女が見せて下さる色々の珍らしいものを見、又三月の御節句にも交へて戴きたがる事です。

日本の御禮祭のことをさきました幾千幾萬の米國人は、年寄も若い者も子供も、大そう御貴國の事に興味を持ちました。そして個人や團體が大よろこびで、御覧のやうな人形に思ひ／＼のさみのをさせて、あつめましたのが一萬個にも達しました。

此等の人形を通して、私共はどの位に日本の子供方の御健康と御幸福と御進歩とを心よりのつて居るかと思ふことを皆様に申上度いので御座います。

よ／＼日本に送るとなりましたとき、諸所で数十個、數百個づゝの人形の送別會が行はれ、その盛んな有様はきめにかげ度い程で御座いました。

私は永い間御貴國に居りましたので、御貴國の習慣として、他から品物を貰ひますと其の親切にひくいるために、何か御禮として差上ることゝ存じてゐます。それですから此人形をお貰ひになつたら返禮をしなければと思ひでせうが、決して／＼その御心配はなさらなくて下さい。其の代りにこちらの子供の喜ぶ物を申し上げますと貴女がたから御手紙を戴く準です。英語でも日本語

でもかまひません。日本文は譯します者が米國に澤山あります。其の御手紙をもし日本の美しい巻紙や輪のついた紙などに書いて下されば尚更喜びます。又櫻や菊や風俗等の繪はがき等に貴女やあなたの學校とか御家庭の御寫真などは大歓迎されます。人形を送りました子供達は御手紙をそれはそれはまつて居りますことをおぼえて居て下さい。

萬一人形につけてあります送出人の姓名番地が途中で失くならしましたらば、人形の旅行免狀の番號を附し、御手紙は私までに出して下さい。さうするとよくしらべて正しい受取人に届けます。

どうか此人形が貴女や御姉妹様方、又御友達の間にも可愛がられ面白がられますやうに、さうして日本と米國といつてもほんたうの仲好し御友達であるやうにと常に私は希望して居るので御座います。

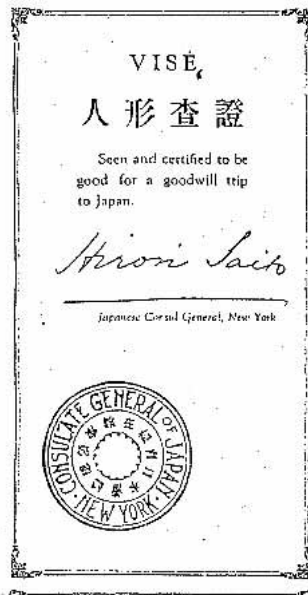
左に私の宿所姓名を英語で記入してあります、御きげんよう。

(Dr.) Ludwig L. Gulick
105 Editt st. N.
New York City
N. Y. U.S.A.

贈呈式(1927年、昭和2年・越谷地区)



「友情の人形」(青い目の人形)に添えられた
パスポート



To Boys and Girls in Japan

This passport introduces to you *Uncle Sam*, a loyal and law-abiding citizen of the U. S. A., who goes to visit Japan as a Messenger of Friendship and to see the Hina Matsuri, March 3, 1927.

This Messenger represents the Boys and Girls of America and carries their greetings and a Message of Goodwill.

Please take care of *Uncle Sam* while in Japan and give her any help and protection that may be needed. She will obey all the laws and customs of your country.

With all good wishes,

"UNCLE SAM"

1927.

PERSONAL DESCRIPTION

Name *Uncle Sam*

Eyes (color) *Blue*

Hair (color) *Dark Brown*

Nose

Mouth

Place of Birth *Washington, D. C.*

"SAY IT WITH DOLLS"

DOLL TRAVEL BUREAU

Good for one fare by rail and steamer to Tokyo, Japan.

Name *Uncle Sam*

No. 4869

99 cents (Special Rate) Seey L. Glick, Inc. (Incorporated)